

## やってみました「ツリークライミング」



5月4日「ツリークライミング体験会」をひらきました。栃木から保養に見えた家族、埼玉県内の家族そして会員などみんなでチャレンジ。森林体験を満喫しました。

「汚染で森林に入る機会が制限されている子どもたちと家族に参加してもらってはどうか」と会員提案があり、この日のお試し体験会が実現。場所は「カラッポのおうち」の荒川対岸、ログハウスを配した「森林研究会こびす」（高橋昭夫代表）の森林。登ったのは同会が整備、管理する大きなくぬぎの樹。

小学生から高齢者まで、ロープワークだけで高い枝までゆっくり上り、5メートル以上の樹木との一体感を味わいま

した。一緒にのぼった運営委員のSさんは森の天狗さんのように、ケナブ空中演奏。森に美しい音色が広がる場面も。

登り終えた後、講師の柴山さんから、森がどのようにつくられているかの説明などを聞いて実感学習。最後に木を囲んで「ありがとう」の言葉掛けで終わりました。

今回の体験会は、講師の柴山さんのボランティアプレゼント、高橋さんの森林利用提供という善意で実現しました。たいへんありがとうございました。



## 会員利用もOK 『コロンビアコーヒー試飲会』



6月4日「カラッポの会」会員による「空き期間利用」がありました。保養等の利用がないとき会員は「おうち」利用ができます。これを活用して、会員のAさんたちはスペイン語勉強会を行いました。会員でオーガニックコーヒー輸入会社アンドレスフェリーペ社長による「コロンビアコーヒーの試飲会」で、会話は日本語禁止とのこと。

コーヒーの淹れ方による味の違いをマジックのような、バリスタの技で目の当たりにしびっくり。「カンパ込の値段で美味しいコーヒーを買い、おうち利用で寄付もできた」と、皆さん納得の感想。

良好な維持管理には、少しでも空き家状態にしないことが一番とのこと。「おうち」が空いている時は、ほかの会員のみなさんも「空き期間利用」に積極的にご協力ください。お待ちしております。

## 夏の保養相談会（二本松）に行ってきました



夏休みに向けて、6月6～7日2日間にわたり、いわきと二本松で保養相談会が行われました（「311受け入れ全国」主催）。カラッポの会は、二日目の二本松相談会に運営委員4人で参加しました。

二本松相談会には100家族200人が来場しました。いわき市での相談会には150～160家族、500人近くの参加があったとのこと。回数を重ねるごとに、保養だけでなく移住情報も充実。「カラッポのおうち」ブースでも、前回から利用している「写真パネル」（ただのボール紙に写真をはっただけですが）や「おもちゃ」が力を発揮（？）15人

ほどのお母さんに家の立地や、家の仕様について説明しました。こども、家族の希望条件に合ったお保養先を探すお母さんたちの姿が見られます。カラッポのおうち案内だけでなく、他団体のブースを紹介することで、団体同士協力しました。

### 昭和横丁（川内村仮設）に立ち寄りしました

相談会終了後、郡山に寄って川内村、NPO「昭和横丁」を訪問しました。直前の5月29日避難解除方針を自公両党が合意、政府に提言を提出したニュースが伝えられていました。志田代表から村の動き、仮設に暮らし続けるお年寄りのことなど、お話を伺いました。「帰還」は川内村の崩壊につながるの厳しい見通し。

「このような時だから、婦人会などと相談をしながら『復興、心は一つ』（仮）をテーマにビッグバンドの演奏会を行いたい」と腹案を話してくれました。カラッポの会のためにチャリティー演奏を行ってくれた本格リタイアプロ集団「ザ・ヴィンテージ」を招きたいとのこと。「お年寄りたちの“冥途の土産に！”」との志田さんの言葉に村の将来への強い思いを感じました（直後、カラッポ会員ヴィンテージ主宰佐々木了民さんに意向を伝えました）。

志田さんのもとへは海外からも多くの訪問者が来るようになり、対応に追われるとのこと。私たちにも自分たちの状況を確かな数字を使用しながら、話してくれ、学ぶところがたくさんありました。



### カラッポのおうち支援「鈴村稔水彩画展」開かれる

運営委員で画家の鈴村稔さんが5月29日～6月3日まで、横浜画廊元町店で水彩画展を開きました。東京新聞横浜版に個展紹介掲載もあり、多くの愛好家が訪れてさわやかな色調の作品を鑑賞しました。なお、作品の売り上げより「カラッポの会」に寄付をいただきました。カラッポの会の運営に中心となり、たくさんのご寄付いただき感謝いたします。個展の成功おめでとうございます。



### 「先天性四肢障害児父母の会」40周年記念の会をたずねました

6月14日「先天性四肢障害児父母の会」（以下「父母の会」）40周年記念の会を訪問しました。「父母の会」は農薬利用が盛んに行われていた40年前くらい、手や足に欠損の見られる子どもたちのお父さんお母さんが集まって、原因究明を求めて活動していた会でした。今では、障害や子どもの生活などについての情報交換をメインに全国組織になって活動しています。

今、原発事故によって、生活をめちゃくちゃにされたご家族について、リアルに想像し理解できる体験を積み上げてこられた皆さんです。お誘いを機会に参加させていただき「カラッポの会」を立ち上げた経過など話すことができました。原発事故による汚染のもとで不安にさいなまれるお母さんたちのこと、分断される地域についてのお話をさせていただきました。あらゆる差別から子どもを守って来られた「父母の会」のみなさんと連携できたらと思います。